信号・ データ処理のための行列とベクトル

一複素数,線形代数,統計学の基礎―

第3章 行列

2020/4/24

実装: 荒井博貴 テスト:折原 俊貴

<u>目次</u>

- 開発環境
- ・ 実装課題 1: 行列の和
- ・ 実装課題 2: 転置とエルミート転置
- 実装課題 3: 行列の積
- 実装課題 4: 正則の判定
- ・ 実装課題 5: 逆行列と連立方程式の解
- まとめ

開発環境

- mac OS Mojave 10.14.6
- Visual Studio Code 1.44.1
- python 3.7.6

実裝課題 1

行列の和を 求める関数を実装する

行列の和 (1/3)

同じサイズの行列 *A,B* による *x* 写像を考える

$$A = [a_1, a_2, \dots a_N]$$

$$\boldsymbol{B} = [\boldsymbol{b}_1, \boldsymbol{b}_2, \dots \boldsymbol{b}_N]$$

Ax+Bx はベクトルの基本演算より

$$Ax + Bx = (x_1a_1 + x_2a_2 + \dots + x_na_n) + (x_1b_1 + x_2b_2 + \dots + x_nb_n)$$
$$= x_1(a_1 + b_1) + x_2(a_2 + b_2) + \dots + x_N(a_N + b_N)$$



$$a_1+b_1,\ldots,a_N+b_N$$
の線型結合なので

$$C = A + B = [a_1 + b_1, a_2 + b_2, \dots a_N + b_N]$$

行列の和 (2/3)

例1 2×2 の行列の和

$$\mathbf{A} = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 5 & 4 \end{bmatrix} \qquad \mathbf{B} = \begin{bmatrix} 6 & -1 \\ -3 & 5 \end{bmatrix}$$

$$\mathbf{A} + \mathbf{B} = \begin{bmatrix} 1+6 & 2+(-1) \\ 5+(-3) & 4+5 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 7 & 1 \\ 2 & 9 \end{bmatrix}$$

行列の和は各成分同士の足し算

行列の和 (3/3)

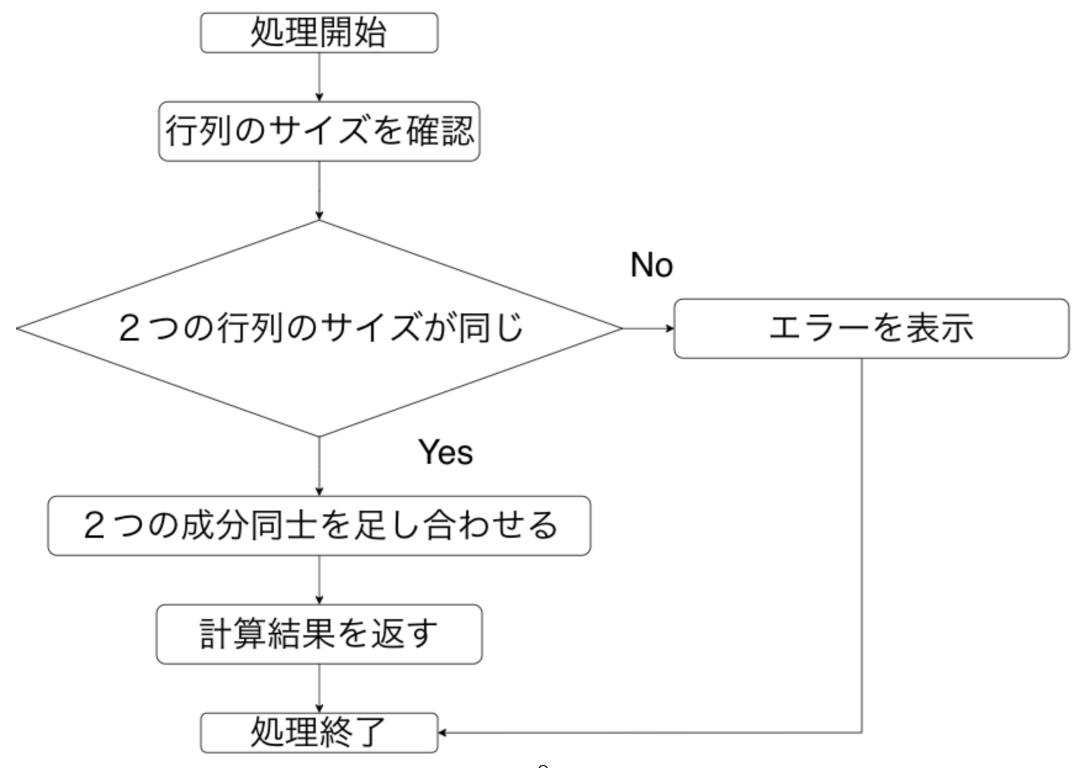
例2 2×2 の行列の差

$$\mathbf{A} = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 5 & 4 \end{bmatrix} \qquad \mathbf{B} = \begin{bmatrix} 6 & -1 \\ -3 & 5 \end{bmatrix}$$

$$\mathbf{A} - 2\mathbf{B} = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 5 & 4 \end{bmatrix} - 2 \begin{bmatrix} 6 & -1 \\ -3 & 5 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} -11 & 4 \\ 11 & -6 \end{bmatrix}$$

行列の差は各成分同士の引き算

行列の和アルゴリズム (1/4)



行列の和アルゴリズム (2/4)

プログラムによる行列の定義

例 2×2 の行列

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 5 & 4 \end{bmatrix}$$



リストの 2 重構造を用いて 記述すると

A=[[1,2],[5,4]]

行列の和アルゴリズム (3/4)

入力された配列のサイズを確認する方法

list の len() を用いて,リストの大きさを確認した

例 行列 リスト

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 5 & 4 & 6 \end{bmatrix}$$
 $A = [[1,2,3],[5,4,6]]$

行:
$$len(A) = 2$$
 列: $len(A[0]) = 3$

行列の和アルゴリズム (4/4)

各成分の足し算方法

for 文を 2 重に回すことにより実現

```
for i in range(A_column):
    for j in range(A_row):
        result[i][j] = (A[i][j]+B[i][j])
```

結果

全ての場合で想定した出力と一致した

実装課題 2

行列の転置とエルミート転置を 求める関数を実装する

行列の転置

行列の行と列を入れ替える作業を転置と呼ぶ



転置

$$A^T = \begin{bmatrix} 1 & 5 \\ 2 & 4 \\ 7 & -2 \end{bmatrix}$$
 3×2

Aの転置は A^T と表す

行列のエルミート転置

複素数の行列に対して転置と複素共役を取ることを エルミート転置と呼ぶ

例
$$A = \begin{bmatrix} 1 - i & 2 & 7 + i5 \\ 5 & 4 + i2 & -2 \end{bmatrix}$$
 2×3

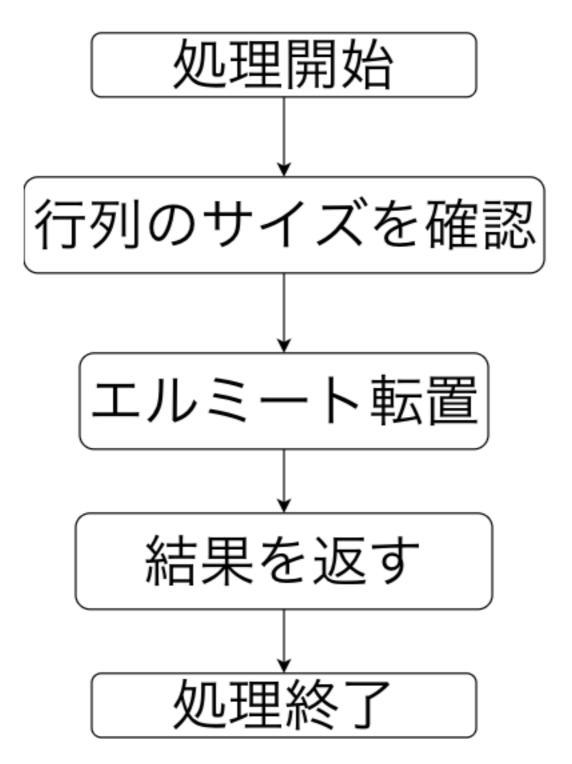


転置

$$A^{H} = \begin{bmatrix} 1+i & 5 \\ 2 & 4-i2 \\ 7-i5 & -2 \end{bmatrix}$$
 3×2

Aのエルミート転置は A^Hと表す

<u> 行列の転置アルゴリズム(1/2)</u>



<u> 行列の転置アルゴリズム(2/2)</u>

行列の転置方法

for文を 2 重に回すことにより実現

```
for i in range(A_row):
    tmp = []
    for j in range(A_column):
        tmp.append(A[j][i].conjugate())
    result.append(tmp)
```

- ※〕append は、リストの要素を追加していくメソッドである
- ※2 conjugate は、複素共役をとるメソットである

結果

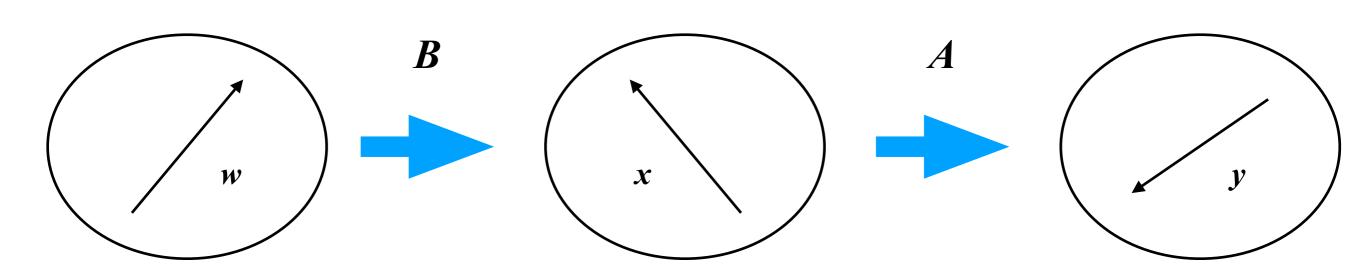
全ての場合で想定した出力と一致した

実裝課題3

行列の積を 求める関数を実装する

行列の積 (1/5)

ベクトルを 2 回写像する場合を考える



$$x = Bw$$

$$y = Ax$$



まとめると

$$y = A(Bw)$$

行列の積 (2/5)

行列をそれぞれ成分と列ベクトルで表すと

$$A = (a_{mn}) = [a_1, a_2, \dots a_N]$$

$$\boldsymbol{B} = (b_{mn}) = \begin{bmatrix} \boldsymbol{b}_1, & \boldsymbol{b}_2, & \dots & \boldsymbol{b}_N \end{bmatrix}$$

それぞれ写像を考える

$$\mathbf{A}\mathbf{x} = x_1 a_1 + x_2 a_2 + \dots + x_N a_N$$

 $\mathbf{B}\mathbf{w} = w_1 b_1 + w_2 b_2 + \dots + w_K b_K$

xの第n成分は

$$x_n = w_1 b_{n1} + w_2 b_{n2} + \dots + w_K b_{nK}$$

行列の積 (3/5)

$$y = A(Bw)$$
 に前ページの式を代入
$$y = (w_1b_{11} + w_2b_{12} + \dots + w_kb_{1K})a_1 + (w_1b_{21} + w_2b_{22} + \dots + w_kb_{2K})a_2 + \dots + (w_1b_{N1} + w_2b_{N2} + \dots + w_kb_{NK})a_N = w_1(b_{11}a_1 + b_{21}a_2 + \dots + b_{N1}a_N) + w_2(b_{12}a_1 + b_{22}a_2 + \dots + b_{N2}a_N) + \dots + w_K(b_{1K}a_1 + b_{2K}a_2 + \dots + b_{NK}a_N)$$

ここで以下のように定義する

$$c_K = b_{1K}a_1 + b_{2K}a_2 + \dots + b_{NK}a_N$$

 $y = w_1c_1 + w_2c_2 + \dots + w_Kc_K$

行列の積 (4/5)

 c_k を列に持つ $m \times n$ の行列Cとすると

$$C = (c_{mk}) = [c_1, c_2, ..., c_K]$$

$$y = (AB)w = Cw$$

$$c_{mk} = a_{m1}b_{1k} + a_{m2}b_{2k} + \dots + a_{mN}b_{Nk} = \sum_{n=1}^{N} a_{mn}b_{nk}$$

行列の積 (5/5)

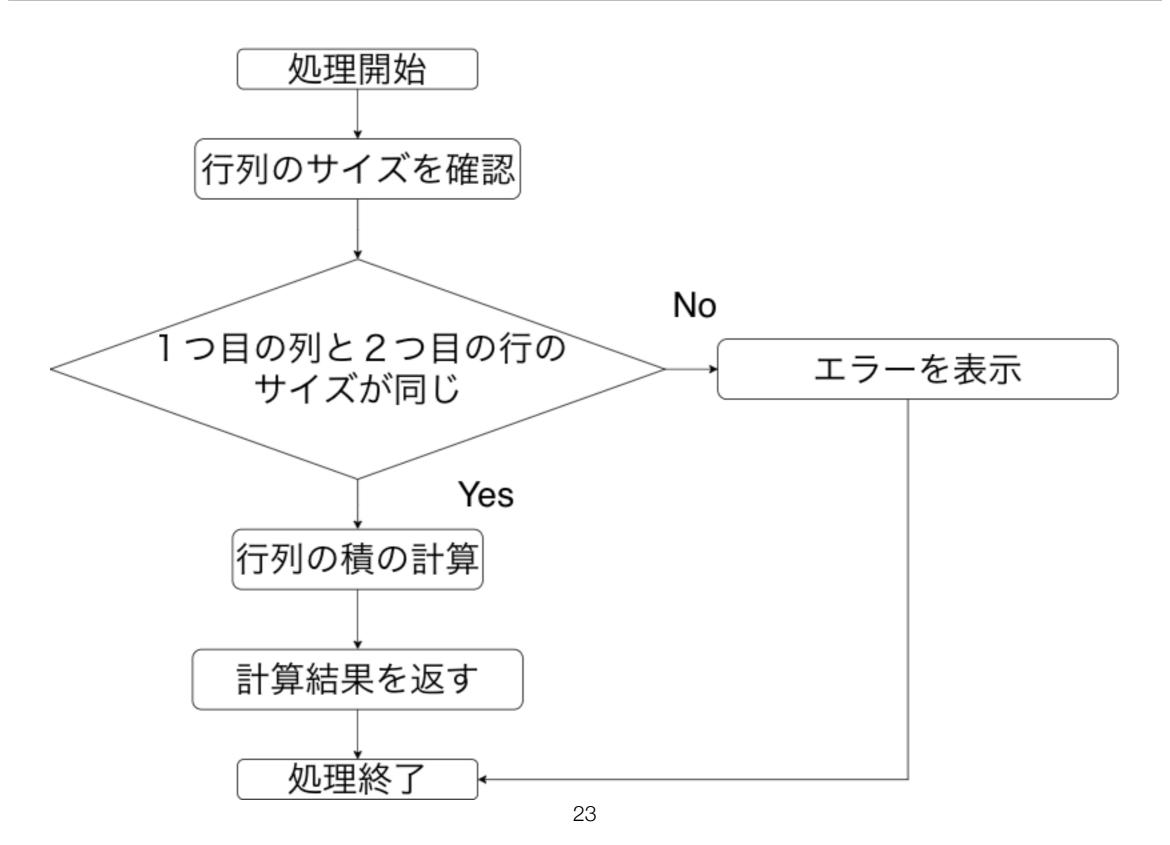
例 2×2 の行列の積

$$\mathbf{A} = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 5 & 4 \end{bmatrix} \qquad \mathbf{B} = \begin{bmatrix} 6 & -1 \\ -3 & 5 \end{bmatrix}$$

$$\mathbf{AB} = \begin{bmatrix} (1 \times 6) + (2 \times (-3)) & (1 \times (-1)) + (2 \times 5) \\ (5 \times 6) + (4 \times (-3)) & (5 \times (-1)) + (4 \times 5) \end{bmatrix}$$

$$= \begin{vmatrix} 0 & 9 \\ 18 & 15 \end{vmatrix}$$

<u>行列の積アルゴリズム(1/2)</u>



行列の積アルゴリズム (2/2)

行列の積計算方法

for文を 3 重に回すことにより実現

```
for i in range(A_column):
    for j in range(B_row):
        for k in range(A_row):
            result[i][j] += A[i][k]*B[k][j]
```

C = AB のとき

行列 C の (i, j) 成分は、行列 A の i 行ベクトルと行列 B の j 列ベクトルの積で表される

結果

全ての場合で想定した出力と一致した

実裝課題 4

行列が正則かどうか 判断する関数を実装する

正則の判定

ガウスの消去法

拡大行列を用いて変数を消去して、順繰りに変数を求めていく手法

手順

- (1) 第 1 式を使って第 2 式以降の第 1 変数 (x) を消去する
- (2) 第 2 式を使って第 3 式以降の第 2 変数(y)を消去する
- (3) (1)(2) を繰り返す

ガウスの消去法

例

$$\begin{bmatrix} 2 & 1 & -1 & 0 \\ 1 & -1 & 3 & 12 \\ -1 & 5 & 2 & -1 \end{bmatrix} \xrightarrow{(2) \to (2) \times 2 - (1)} \begin{bmatrix} 2 & 1 & -1 & 0 \\ 0 & 3 & -7 & -24 \\ 0 & 11 & 3 & -2 \end{bmatrix}$$

$$(3) \to (2) \times 11 - (3) \times 3 \begin{bmatrix} 2 & 1 & -1 & 0 \\ 0 & 3 & -7 & -24 \\ 0 & 0 & -86 & -258 \end{bmatrix}$$

$$\begin{cases} 2x+y-z = 0 \\ 3y-7z = -24 \\ -86z = -258 \end{cases} \quad z = 3, \quad y = -1, \quad x = 2$$

階段上の拡大行列の形を行階段形

ランク (階数)

ランク (階数) … 行のうち全てが 0 ではない行の数

先ほどの例では…

rank(A) = 3

M×N の行列 *A* について

 \cdot M<N(横長)かつ rank(A) = M のとき,A は行についてフルランク

 \cdot M>N(縦長)かつ rank(A) = N のとき,A は列についてフルランク

 \cdot M=N(正方)かつ rank(A) = N のとき, A はフルランク

を持つという

正方行列Aがフルランクを持つとき、Aを正則行列と呼ぶ

不定

例

$$\begin{cases} x - y + 2z = 2 \\ x + y + z = 1 \\ 2x + 2y + 2z = 2 \end{cases} \begin{bmatrix} 1 & -1 & 2 & 2 \\ 1 & 1 & 1 & 1 \\ 2 & 2 & 2 & 2 & 2 \end{bmatrix} \xrightarrow{(2) \to (2) - (1)} (3) \to (3) + (1) \times 2 \begin{bmatrix} 1 & -1 & 2 & 2 \\ 0 & -2 & 1 & 1 \\ 0 & -2 & 1 & 1 \end{bmatrix}$$

rank(A) = 2, rank(A | f) = 2

3×3 の行列において,

rank(A) = rank(A | f) = 2 では解が一意に定まらない

不能

例

$$\begin{cases} x - y + 2z = 2 \\ x + y + z = 1 \\ 3x + y + 4z = 3 \end{cases} \begin{bmatrix} 1 & -1 & 2 & 2 \\ 1 & 1 & 1 & 1 \\ 3 & 1 & 4 & 3 \end{bmatrix} \xrightarrow{(2) \to (2) - (1)} \begin{bmatrix} 1 & -1 & 2 & 2 \\ 0 & -2 & 1 & 1 \\ 0 & -4 & 2 & 3 \end{bmatrix}$$

連立方程式が 成り立っていない!

$$(3) \to (3)-(2)\times 2 \qquad \begin{bmatrix} 1 & -1 & 2 & 2 \\ 0 & -2 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & -1 \end{bmatrix}$$

 $rank(\mathbf{A}) = 2, rank(\mathbf{A} \mid \mathbf{f}) = 3$

3×3 の行列において,

 $rank(A) \neq rank(A | f)$ では解が存在しない

不定と不能

$$Ax = f$$
 (Aは M×N の行列)

- rank(A) = rank(A|f) のとき、解は存在し
 - (1) rank(A) = Nであれば、解は一意に決まる
 - (2) rank(A) < Nであれば、一意に決まらない(不定)
- $rank(A) \neq rank(A|f)$ のとき、解は存在しない(不能)

正則判定方法

例
$$3 \times 3$$
 の場合
$$A = \begin{bmatrix} 2 & 1 & -1 \\ 1 & -1 & 3 \\ -1 & 5 & 2 \end{bmatrix} \quad (3) \rightarrow (2) \times 2 - (1)$$

$$A = \begin{bmatrix} 2 & 1 & -1 \\ 1 & -1 & 3 \\ 0 & 11 & 3 \end{bmatrix}$$

$$(3) \to (2) \times 11 - (3) \times 3$$

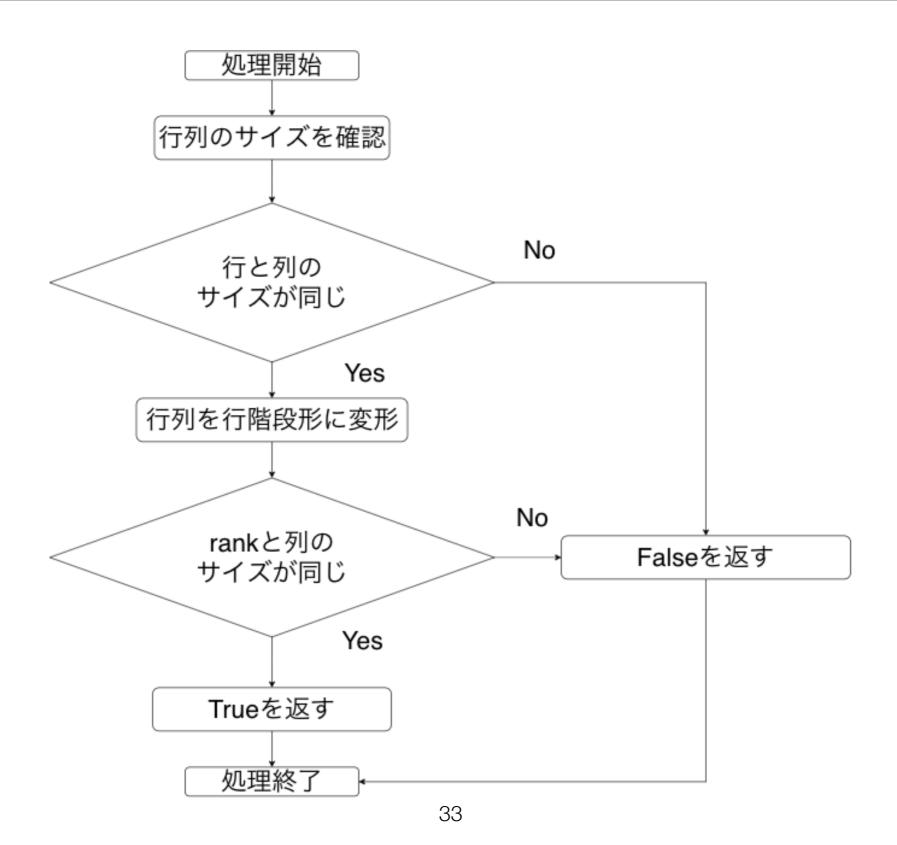
$$\begin{array}{c} 2 & 1 & -1 \\ 0 & 3 & -7 \\ 0 & 0 & -86 \end{array}$$

rank(A) = 3であるため、A は正則である

 $N \times N$ の行列 A において, rank(A) = N ならば

A は正則行列である

<u>正則判定アルゴリズム(1/3)</u>



正則判定アルゴリズム(2/3)

行列を行階段形に変形する方法

for 文を用いてガウスの消去法を実現

- (1) 入力された行列の 1 行目を使い, 2 行目以降の 第 1 成分を消去する
- (2) 行列の 2 行目を使い, 3 行目以降の第 2 成分 を消去する
- (3) 以上を繰り返す

N 行目の第 N 成分(行列の対角成分)が O の場合、 行を入れ替えるものを組み込んだ

正則判定アルゴリズム(3/3)

行の入れ替える方法

if 文により N 行 N 列の O 判定を行い,

for 文を用いて N 列の N 行目以降の 0 でない行の入れ替えを実装した

```
for l in range(k+1,A_column):
    if tmp[l][k]!=0:
        for n in range(A_column):
            tmp_tmp = tmp[l][n]
            tmp[l][n] = tmp[k][n]
            tmp[k][n] = tmp_tmp
```

結果

全ての場合で想定した出力と一致した

実裝課題5

連立方程式を解く関数 逆行列を求める関数 を実装する

逆行列の定義(1/2)

連立方程式は、二つの行列 A, B の積 BA が単位行列 I になるような行列 B を両辺の左から乗じる操作をすることで解くことができる

$$BAx = Bf$$

$$BA = I \downarrow b$$

$$x = Bf$$

このとき、B は A の逆行列であるといい、

 A^{-1} と表す

逆行列の定義(2/2)

可逆

N×N の正方行列 *A,B,C* があり

$$BA = AC = I$$

を満たす時、A は可逆であるという (B = C)



可逆な行列 A に対して

$$AA^{-1} = A^{-1}A = I$$

が成り立つ

逆行列の存在(可逆性)は,

連立方程式の解が一意に存在することを意味する

逆行列の計算法

• ガウスの消去法 (掃き出し法)

• 余因子を用いた方法

→行列のサイズが大きくなると余因子を用いた方法では計算量が 膨大になってしまうため実装ではガウスの消去法を用いた

ガウスの消去法

$$[A \mid I] = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 & 0 \\ 2 & 5 & 0 & 1 \end{bmatrix} \xrightarrow{(2) \to (2) - (1) \times 2} \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 & 0 \\ 0 & 7 & -2 & 1 \end{bmatrix}$$

$$(1) \to (1) + (2)/7$$

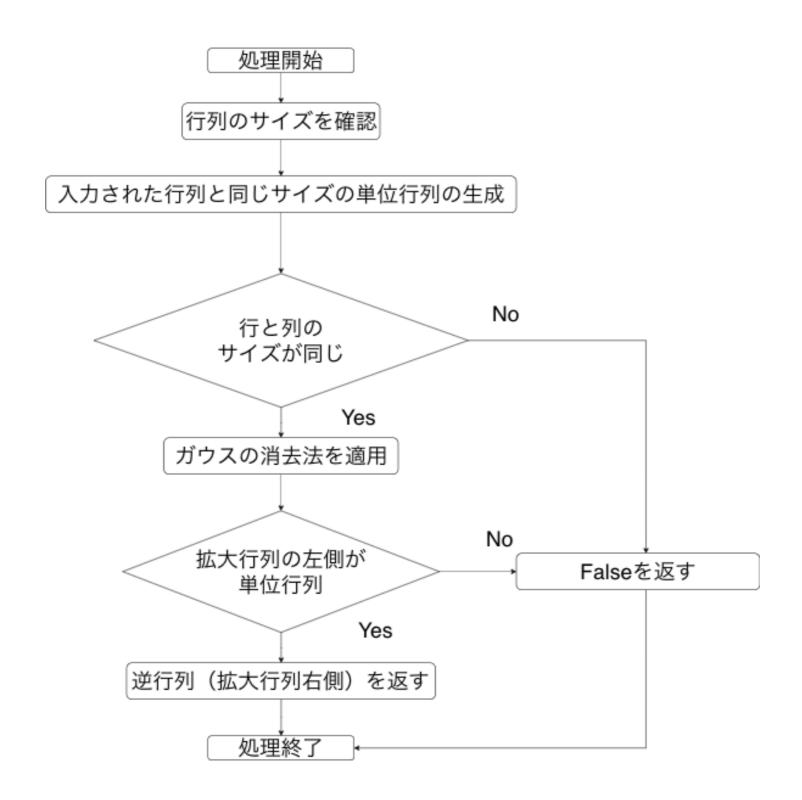
$$(2) \rightarrow (2) / 7$$

$$(2) \rightarrow (2) / 7$$

$$1 \quad 0 \quad \frac{5}{7} \quad \frac{1}{7}$$

$$0 \quad 1 \quad -\frac{2}{7} \quad \frac{1}{7}$$

<u>逆行列計算アルゴリズム(1/2)</u>



<u>逆行列計算アルゴリズム (2/2)</u>

拡大行列の変形方法

正則判定のアルゴリズムと同様

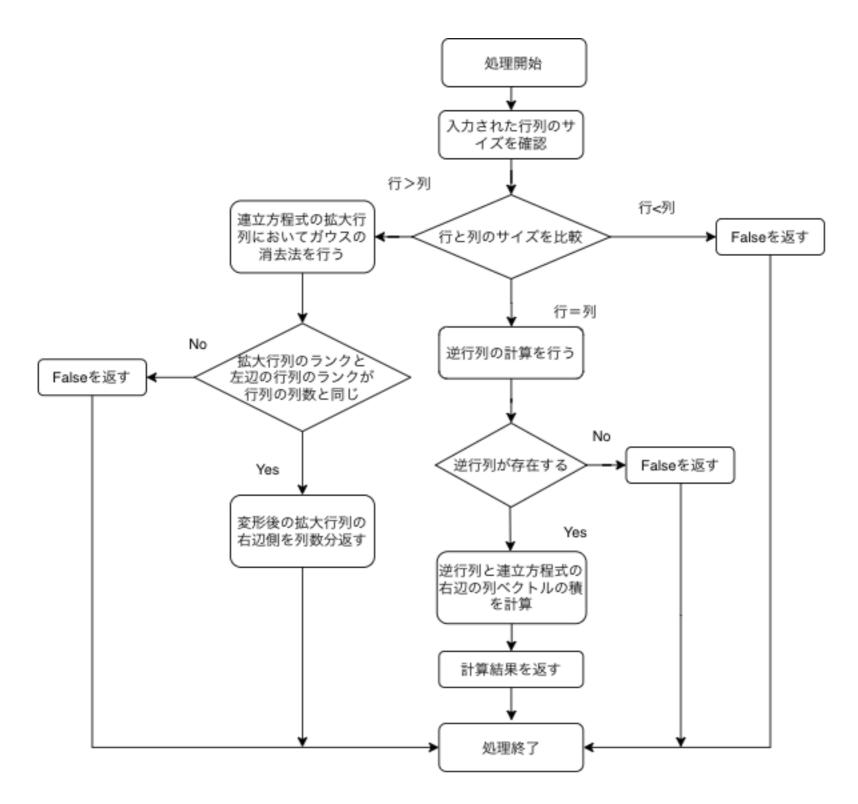
for 文を用いてガウスの消去法を実現

逆行列が存在しない場合のみ False が返される

結果

全ての場合で想定した出力と一致した

解を求めるアルゴリズム (1/4)



解を求めるアルゴリズム (2/4)

解の計算方法(正方行列の場合)

課題 3 の行列の積と課題 5 の逆行列を計算する関数を用いて解の計算を実現した

$$Ax = f$$

$$A^{-1}Ax = A^{-1}f$$

$$Ix = A^{-1}f$$

$$x = A^{-1}f$$

解を求めるアルゴリズム (3/4)

解の計算方法(縦長の行列(行数>列数)の場合)

ガウスの消去法を用いて 連立方程式の拡大行列を変形

ランクと列の数を比較することで 解が一意に決まるか判定した

解を求めるアルゴリズム(4/4)

例 3×2の場合

$$[A \mid f] = \begin{bmatrix} 1 & 1 \mid 1 \\ 1 & 3 \mid 3 \\ 2 & 4 \mid 4 \end{bmatrix}$$

$$[A \mid f] = \begin{bmatrix} 1 & 1 \mid 1 \\ 1 & 3 \mid 3 \\ 2 & 4 \mid 4 \end{bmatrix} \xrightarrow{(2) \to (2) - (1)} \begin{bmatrix} 1 & 1 \mid 1 \\ 0 & 2 \mid 2 \\ 0 & 2 \mid 2 \end{bmatrix}$$

 $rank(A) = rank(A \mid f) = 2$ より、列数と一致するので解が一意に決まる

結果

全ての場合で想定した出力と一致した

まとめ

- python の基本的な書き方(for 文など)を理解した
- 信号処理で用いられる行列の基本を学ぶことができた。
- テストファーストプログラミングによる実装の仕方 を学ぶことができた